

No.191  
地域母子保健  
福祉情報紙

母推さん

わたしたちは「健やか親子21」国民運動を推進しています 社団法人 母子保健推進会議

うるまの子どもたちのために、ぬちかじり!! 沖縄県うるま市



島袋俊夫市長を囲んで 左から健康推進課島袋保健師、上門係長、村山主幹、母子係高良さん、母推の兼本さん、島袋市長、母推の佐次田会長、県母推協議会積会長、本会議原澤常務理事

那覇市から北東へ25km、沖縄県で3番目に多い人口を有するうるま市は、沖縄本島中部の東海岸に位置する。「うるま」とは、沖縄の言葉(うちなーぐち)で『珊瑚礁の島』。勝連半島から海中道路で結ばれた北東海上には有人、無人の8つの島々が連なり、美しい風景と豊かな自然環境に恵まれた姿はまさに「うるま」。また、重要港湾である金武湾と中城湾を有し現代社会を支えつつ、世界遺産勝連城跡、仲原遺跡(4頁で

紹介)は古代人の生活の息吹も感じさせてくれる。様々な顔を併せ持つうるま市である。

うるま市島袋俊夫市長、市民部健康支援課村山秀子主幹、同課上門亜希子係長、

島袋尚美保健師、神里利枝子保健師、母子担当高良公子さん、うるま市母子保健推進員協議会佐次田予志子会長、



秀逸な手づくり教材が多いうるま市の母推活動

山城美喜子役員、前会長金城澄子さん、兼本テル子さん、前役員の知名禮子さんと國場美代子、當山静子さんにお話を伺った。

協議会活動と地区活動で 親子にしっかり寄り添って

平成17年4月、具志川市、石川市、勝連町、与那城町が合併、うるま市となった。平成22年5月末の人口は118,307人、世帯数44,314世帯でやや増加傾向にある。平成21年の出生は1,340人、平成15年～19年の合計特殊出生率は1.84であり、全国の1.31、沖縄県の1.74より高い。

出生率の高いうるま市の親子を支える母子保健事業は、妊産婦、乳幼児期、学童・思春期ごとに目標を立て、それを縦系として、横系に健康相談、健康教育、訪問指導等々の事業が計画、実施され、切れ目なく親子を支えるように組まれている。(うるま市母子保健事業の流れ(平成22年)2頁図)

市が実施する母子保健事業のうち健康相談以外は、ほぼ母子保健推進員活

5月のページ

活動紹介 うるまの子どもたちのために、ぬちかじり! 沖縄県うるま市... 1~4  
紙上セミナー:子育てって楽しい!「お座りまで」..... 5  
妊娠は素敵なこと~自分に合った時期の選び方~佐賀県研修会から... 6~7  
紙上セミナー:8020の里づくり「歯・口の健康と顎の関節」ほか... 8~9  
母子保健課です:妊婦健康診査の公費負担の状況にかかる調査結果について... 10~11  
「健やか親子21 全国大会」及び活動報告会のご案内 ..... 12

動と連携しているという。母子保健推進員（以下母推さん）は保健師や母子担当から事業の説明を受け話し合いながら、事業への協力、自主活動を通して地域の母子を支えている。

母子保健推進員の主な活動は、

1. 訪問活動

乳児家庭全戸訪問、健診未受診者訪問、市や保健師からの依頼による訪問、各種母子保健サービスの紹介とその活用の啓発

訪問先では、母子に関する問題点の把握を行い保健師へ連絡する。

2. 各種保健事業への協力

乳幼児及び歯科健診事業（計測・誘導・危険防止・児の見守り）、マタニティスクール、ベビースクール、健診事後フォロー教室（あつがる☆くらぶ・オレンジ☆くらぶ）、予防接種事業での子守り・手伝いなど

3. 定例会（月に1回）

訪問活動の報告、学習会及び情報交換会 小物づくりなど。活動の中で見えた課題を出し合う場でもある。

4. 地区ごとの活動及び自主活動

全体での定例会のほか地区ごとにも集まり、手づくり教材制作や「ゆん

たく会（OGも加わり情報交換をしながら訪問時配布のスタイづくりなど）」を行っている。

母推さんの配慮、工夫で

訪問、健診もスムーズに

乳児家庭全戸訪問事業では、平成20年772人（出生1376人）、平成21年897人（出生1340人）と訪問件数も増加している。

「こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業）では、地域にどんなお母さんたちがいるのだろう、困っていることはないかしら、という視点でコツコツと訪問して下さっていて、その後の活動のベースともなっています。私たち保健師が訪問する前に母推さんがアプローチされていることが多く「先月母推さんが来て下さいました」とよく言われます。私たちも事前に報告を得ているので効果的な訪問ができます。健康教育、健康診査との関わりについても地域で声かけをしてくれて、保健師活動と非常によく連動しています。」

訪問には苦勞から生まれた工夫もある。



グループワークで情報や悩みを共有して



真剣な表情で計測の実習に臨む母推さん（左）

母推さんそれぞれが工夫をして訪問を  
実の多いものとしている。「母推さんの中には20年以上活動を続けている方もいらして、その工夫、経験を新しく入られる方々に伝えて下さっています。市で研修も行いますが、経験からの工夫も大きな財産です。」(母子担当)

健診では、計測等のほか、健診のメニューがスムーズに流れるよう、早めに呼び出し準備を手伝ったり、すいている所へ誘導する。また一緒に連れて来られる兄弟の見守りや、けがなどが  
ないよう安全面に目を配るのも母推さんの重要な役割である。さらには、待ち時間を利用して学んでいただこうと、家庭内の子どもの事故が起きやすい場面を紙粘土等で模型（1頁及び3頁下の写真）、むし歯予防啓発用の大きなタペストリーなど、手づくり教材を各種制作している。「母推さんのお

Table with multiple columns and rows containing detailed text, likely a schedule or organizational chart for the community health activities.

他の母子に関わる事業やイベントに積極的に出向き顔を覚えてもらう、子どもの名前を呼ぶ、玄関を開けてくれたらまず子どもをほめる、など、



前列左から母推の兼本さん、金城さん、母推協議会佐次田会長、本会議原澤常務理事、うるま市健康支援課村山主幹、後列左から母推の國場さん、健康推進課島袋保健師、上門係長、母推の富山さん、知名さん、山城さん、沖縄県母推協議会積会長、うるま市健康推進課母子係高良さん

は現在会員74名、任期は2年だが再任は妨げない。長い方では昭和53年から活動。担当地区に空きができる、市の担当から地区の公民館館長に母推活動の大切さを説明して地区から推薦してもらう。

母子保健推進員活動は、合併前の旧市、町でそれぞれ昭和49年～53年頃から始まった。各市町の地域特性を生かし、訪問や健診への協力、自主活動などの活動を行ってきた。平成17年4市町が合併、母子保健推進員活動も新市として行うこととなり、平成21年、「うるま市母子保健推進員協議会」が設置され、一層組織的で活発な活動が行われるようになった。し

かし、旧市町でそれぞれ長い活動の歴史を積み上げてきたため、組織づくりには、当初戸惑いもあった。

合併当初、協議会設立に賛成した母推さんは1/3。協議会がなくても活動している、必要性を感じない、4市町が合併し細長いうるま市では定例会に出席するのも大変、などが主な理由。それでも、旧市町の役員、市の担当、県協議会積会長らとの度々の話し合いの末、設置に至った。協議会設置2目年となる現在では、他地区の活動を知り活動の幅が広がった、活動がやられる活動から楽しみになった、知り合いが増えた、など「協議会ができてよかった」という声が多い。

沖縄県では、県下全地域で以前より母子保健推進員活動が行われており、平成15年には「沖縄県母子保健推進員連絡協議会」が設置され、さらに

各支部（保健所単位）を設置するとともに、組織未設置の市町村に対しては協議会を作るよう、県協議会から働きかけをしている。市町村協議会を設置し、県協議会に加入することの意義を沖縄県協議会積静江会長に聞いたところ、以下の2点をあげた。



手づくりオリジナル教材の胎児模型

かげで、健診にかかる時間もかなり短くなっていますし、待ち時間も、お母さん方は手づくり教材を見たり母推さんと話しをすることで、待たされている、という意識が少なくなったのではないのでしょうか。お母さん方も満足して帰られていると思います。」

### 協議会設置の戸惑いと意義

「うるま市母子保健推進員協議会」



子どもの事故予防啓発用手づくり教材はリビング、キッチン、浴室・トイレ・ベランダなど3種

新商品の紹介  
**LOTTE**

**むし歯のない社会へ。**  
**ロッテ キシリトールガム neo**

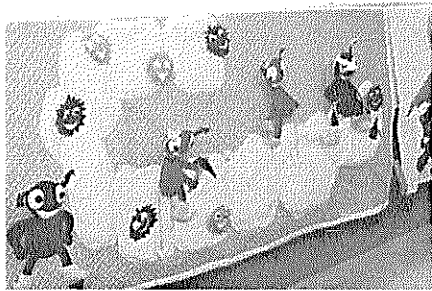
もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。  
キシリトールの世界が広がりました。  
大切な歯のために、毎日続けてください。  
キシリトール習慣！

◎ 厚生労働省許可 保健機能食品(特定保健用食品) (財)日本学校保健会推薦 (社)日本学校歯科医会推薦

**neo XYLITOL®**

ガムをかんだ後は紙に包んでくずかごへ。

www.lotte.co.jp



むし歯予防の啓発も温かみと楽しさとともに

①研修会を受ける機会が増える(勉強になる、情報が増える→資質と意識の向上に)

②同様の活動をする(目的をもった)市町村内外、県内外の人と知り合える(人の輪が広がり視野が広がる→意識の向上に)

積会長は、うるま市母子保健推進員協議会が設置されるまで、再三同市を訪問、市協議会設立に尽力した。

うるま市母推協議会会則(抜粋)

第1条(名称及び事務所)本会は「うるま市母子保健推進員協議会」と称し事務局をうるま市健康支援課におく。

第2条(目的)本会は会員相互の交流、親睦と資質の向上を図り、地域母子保

健活動を推進し、本市の母子保健の向上に寄与することを目的とする。

第3条(事業)本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1)母子保健の推進に関する連絡、調整
- (2)母子保健推進の啓発普及
- (3)会員の交流、親睦に関する事業
- (4)会員の資質の向上に関する事業
- (5)その他前条の目的を達成するために必要な事項

第5条(役員)本会に次の役員を置く。

会長 1名、副会長 1名、書記 1名、会計 1名、理事 若干名、監事 2名、会長及び副会長、書記、

会計は会員の互選により選出し、総会において承認を得る。

第8条(会費)本会の会費等については、次のとおりとする。

- (1)本会の会費は、年額1,300円とする。(内300円は県協議会負担金)

### ぬちかじりい!

#### 地域の目線で住民を支えて

平成22年度同協議会の活動目標は

1. 健診の意義を広めよう
  2. 予防接種率を高めよう
- 上記の目標のもと、一層生き生きと活動を展開している。



担当の母推さんを写真入りで紹介、机の上には訪問時プレゼント用手作り母子健康手帳入れとスタイ

・子どもが好き、自分も勉強になると母推活動を続けてきましたが、協議会ができて他地区の活動もわかり、よいものは互いに取り入れたりして活動の幅が広がり、今は私自身が楽しんでいます。(母推さん)

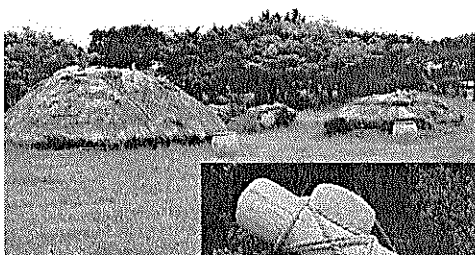
・母推さんの活動は、それぞれの地区(旧市町)でも自主的な

活動も含め熱心にされていますが、それが一つになって、とても大きな力となりました。私たち保健師、行政職だけではとても母子保健事業は成り立ちません。母推さんの活動に支えられているのです。(保健師さん)

島袋市長は、「2市2町が合併し、母推さんの活動も一つになったのですが、母推さんは、市としての活動に加えそれぞれの地域に合わせた対応もして下さっています。ニーズの多様性にきめ細かく応じ、地域の目線で、住民に根差した活動で住民を、社会をしっかり支えて下さっているのです。ぬちかじりい(精一杯頑張っ)!!!

## ふるさと 食・技・遊

### 仲原遺跡



勝連半島から海中道路を北西へ、いくつかの橋を渡り島を通り、もっとも先にある伊計島。その中

央近くのサトウキビ畑の中に、仲原遺跡はある。

沖縄貝塚時代中期(2400~2500年前)の集落跡で、石垣の1~2坪の長方形の竪穴住居11基がほぼ一直線に並んでいる。土器、石斧、貝製品のほか人骨も5体出土しており、当時の埋葬習俗、考え方を知る貴重な資料となっている。